

# 気をつけよう！夏の感染症

過ぎやすい季節になってきましたが、寒暖差により体力の消耗、自律神経が乱れてしまう事も多くあります。また、水遊びの水を媒介している色々な病気が感染しやすく、あっという間に広まることも多いのです。夏、どんな感染症がはやるのかを知ったうえで十分に気をつけていきましょう。

令和3年6月25日（金） もりのなかま保育園 札幌山鼻園

## ヘルパンギーナ

**原因**▶ コクサッキーウイルスA群などに飛沫感染することで発症。

**症状**▶ 高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ほうや潰瘍（かいよう）ができて痛みがひどく、乳児の場合はミルクが飲めなくなるほどに。

**対応**▶ のどの痛みは、熱が下がってからも続くことがある。熱やのどの痛みがあるうちは、安静に過ごすように。

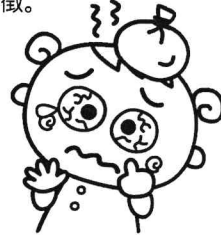


## 咽頭結膜熱（プール熱）

**原因**▶ アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を介して感染することがあるので、「プール熱」と呼ばれる。

**症状**▶ 39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状が出るのが特徴。

**対応**▶ 感染したら、症状がなくなってから2日経過するまでは登園停止。自宅で安静に過ごすように。



## 流行性角結膜炎

**原因**▶ 目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、プールの水だけでなく、タオルの共有や手指の接触によっても感染する。最近は季節に関係なく発症する傾向がある。

**症状**▶ まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うことも。

**対応**▶ 完治まで2～3週間かかり、感染予防のため、こまめに手を洗い、タオルの共有は避ける。

## 手足口病

**原因**▶ コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる飛沫感染。

**症状**▶ 手のひらや足の裏、口の中に小さな水ほうや赤い発しんがで、熱が出ることも。

**対応**▶ 3～5日で治る。元気があれば登園できるが、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛やおう吐を伴う発熱が3日以上続くときは、すぐに受診を。



## とびひ

**原因**▶ 虫刺されや湿しんをかきむしったあとに黄色ブドウ球菌などが感染して起こる。症状がどんどん広がっていくことからこの名称で呼ばれる。皮膚が弱いとかかりやすい。

**症状**▶ 皮膚に水ぶくれができ、破けて赤くむけたような状態になる。発熱することもある。

**対応**▶ 主な治療法は抗生物質の使用だが、衣服を清潔に保つこともたいせつ。患部をガーゼなどで覆って登園するように。また、患部がじくじくしているときは症状が悪化しやすいので、プールは避ける。シャワーを浴びる程度ならOK。

## 水いぼ

**原因**▶ ボックスウイルス群が原因。タオルやビート板の共有、体の接触などで感染する。

**症状**▶ 粟粒大のいぼが胸や腹、わきの下など体中にできて広がる。

**対応**▶ 完治まで半年から1年半程度かかる。肌のバリア機能が低下しているときや、かゆくてかきこわしてしまうようなら、医師と相談のうえ、いぼを取ったり、薬による治療を行う必要も。周囲に感染するので放置は禁物。

